

愛光学園

AIKO Educational Institution

No. 12-073-2022作成

新築
学校

発注者	学校法人 愛光学園	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	大成建設株式会社		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

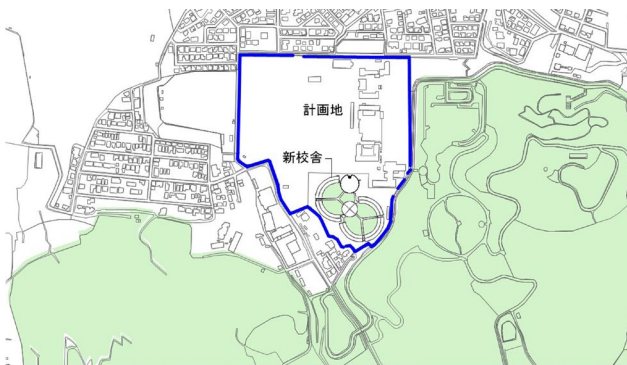
環境を最大限に活かしたオリジナリティ溢れる学び舎



周囲の環境と調和する分棟型校舎[School Village]

環境と一体化する「愛と光の建築」

愛光学園は、カトリックドミニコ修道会が運営する中高一貫教育の進学校である。学園は建学の理念「われらが信条」の中に、「世界的教養人」「愛と光の使途」ということを掲げており、広く世界で活躍される卒業生を輩出してきた。学園の精神を理解し、「愛校心の増す魅力ある学校」「自然の光と共存する建築」「豊かな緑に包まれる教育環境」を実現することを目指した。敷地は、緑豊かな山々に囲まれており、敷地内には、校舎、体育館の他、別棟で図書館、学生寮、修道会の建物が建っている。この中で新校舎の建設地は、一番山に近い場所を選んだ。さらに、リング状の平面形にすることで緑を多くの教室から最大限に享受することができる考えた。それと同時に、リングの内側にも緑豊かな中庭をつくることで、外と内の光と緑に包まれる教育環境を実現している。



山々に囲まれる周辺環境と計画地

オリジナリティ溢れる分棟型校舎[School Village]

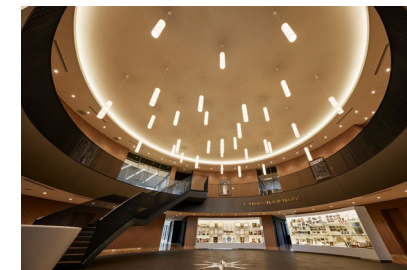
周囲の豊かな環境を活かし、生徒、教員に親しまれる校舎を目指した。それぞれの機能を分棟化し、目的に合った空間創りを行った。分棟化した校舎群[School Village]は、中庭を囲んでリング状に繋がる中学、高校の教室棟、学園の入口となる円錐状の門をイメージした本部棟、中心にあり学園全体を見渡すガラス張の教員棟で構成されている。教室棟[School House]は、1学年一棟の独立性の高い学び舎とした。[School House]毎に教室、トイレ、多目的に使う[Innovative Lounge]を設け、学年毎のまとまりを生み、我が家で過ごすように感じられる空間とした。突当りがなく、永遠につながるという意味を込めたリング状の廊下、学年を超えた交流を育む中庭などと共に、オリジナリティ溢れる学び舎となっている。

学園のエントランスゲート[本部棟]

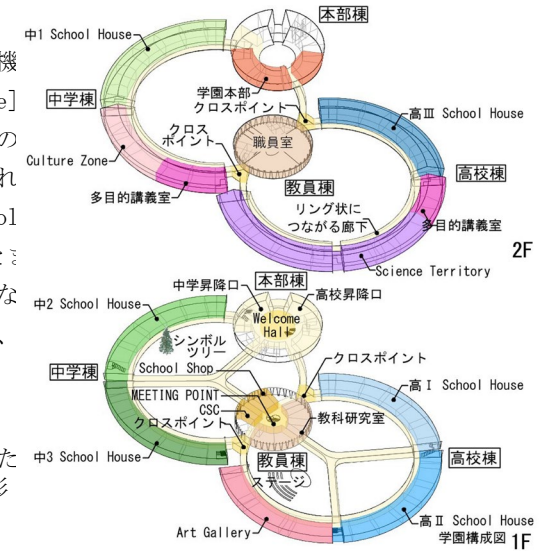
外観は学園の歴史ある品格を表現し、円錐状の門をイメージした象徴的な造形とした昇降口や学園本部の機能が入っている。2層吹抜けの[Welcome Hall]は、歴史や表彰などを展示し、学園の伝統と歴史に触れ合う場所とした。



エントランスゲート[本部棟]



歴史と伝統に触れる[Welcome Hall]



学園の品格を表現する象徴的な外観

生徒を見守る中心の棟[教員棟]

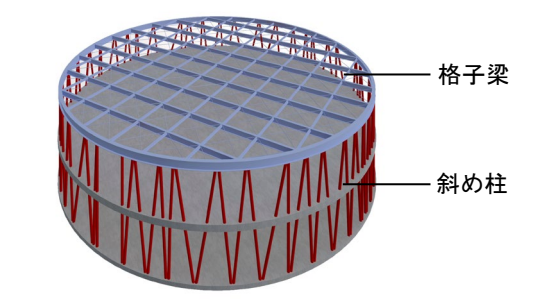
School Villageの中心に職員室や教科研究室などがある教員棟を設けた。生徒と教員の距離を縮め、360度生徒を見守ることができるようにガラス張りとした。外周部に斜め柱を配置した外郭構造により、直径約30mを無柱で構成し、見通しの良い空間とした。



360度生徒を見守る[教員棟]



直径30mの無柱空間[教員棟]



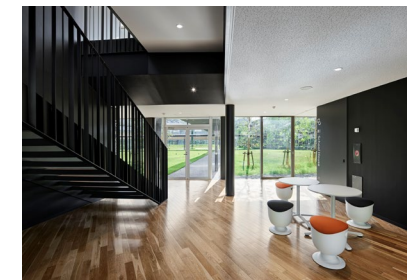
無柱を実現する教員棟の外郭構造

光と緑に包まれる我が家[教室棟]

中学棟と高校棟に分け学年毎に独立した学び舎は、自分達の家で過ごすように感じられ、友達との連帯感も強くなると考えた。教室の両側の窓を通して緑と光に包まれ、自然と共存する学習環境とした。また学年毎に[Innovative Lounge]を設け、自学や昼食など様々な用途に利用できるようになっている。



光と緑に包まれる教室



多目的に使う[Innovative Lounge]

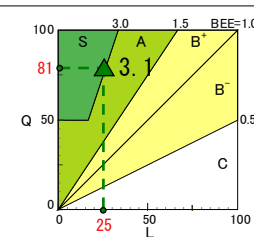


永遠につながるリング状の廊下

建物データ	
所在地	愛媛県松山市
竣工年	2021 年
敷地面積	92,945 m ²
延床面積	9,515 m ²
構造	RC造、S造
階数	地上2階

省エネルギー性能	
BEI=0.76	

CASBEE評価	
Sランク	
BEE=3.1	
2016年度版	



主要な採用技術 (CASBEE準拠)	
Q2. 2. 耐用性・信頼性 (仕上材や設備の補修、更新間隔への配慮。長寿命建築)	
Q2. 3. 対応性・更新性 (設備の更新性)	
Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化、復元。地域の郷土種への配慮。野生小動物の生息域の確保)	
Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (新たなシンボルの形成)	
Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (内外における様々な交流空間の創造。植栽による西日対策)	
LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (PAL性能向上、高性能ガラス、庇の深い外装)	
LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御、高効率変圧器の採用)	
LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器、雨水利用)	

サステナブル建築事例集／一般社団法人日本建設業連合会
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します